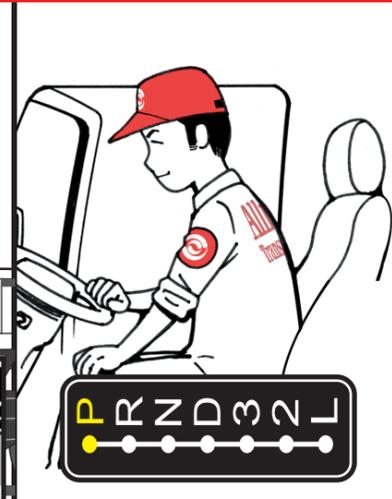


## AATF 排出作業手順

- 平坦な場所に駐車し、輪止めをして下さい。

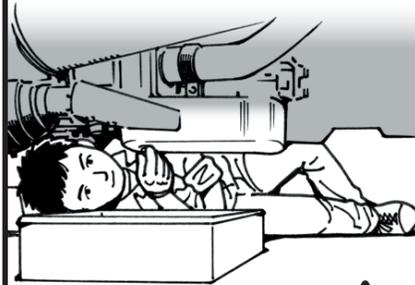


輪止め



- セレクトバーをPレンジにします。

- 受皿を置き、オイルパンのドレーンプラグを外して下さい。



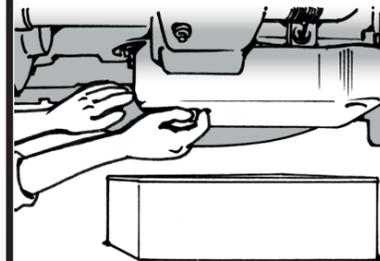
エンジンを止めた直後はオイルパンが熱くなっています。



AATF 排出前にエンジンを暖機運転し、AATFを温めると早く排出できます。

## AATF 注入作業手順

- オイルパンのドレーンプラグを取り付けてください。

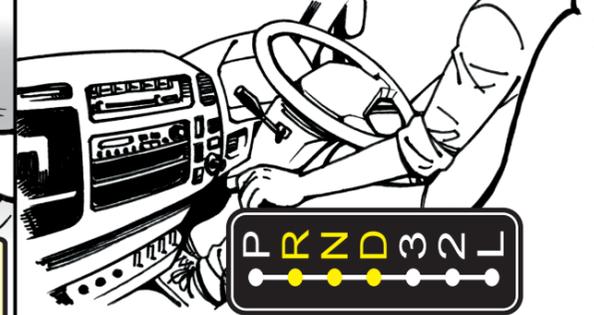


- レベルゲージガイドからAATFを約7リッター注入して下さい。



オイル補給容器はきれいな物を使用して下さい。ごみ・異物が混入すると故障の原因になります。

- パーキングブレーキを確実に効かせフットブレーキペダルを踏みながら、1分間以上エンジンをアイドル回転させます。その間、各シフトレンジ(D/N/R)へゆっくりとシフトした後、Nレンジ位置に戻し、回路内のエアを抜きます。



エンジンの空ぶかしは絶対に避けましょう。

この作業で、トランスミッション全体(各油圧回路・クラッチ部)にオイルを充填させます。また回路内からエアを完全に抜きます。

## コールドチェック手順

- アイドル回転させたまま、オイル量がレベルゲージのCOLD(コールド)範囲内にあるか点検して下さい。



不足している場合は給油し、多すぎる場合はドレーンプラグより排油して下さい。



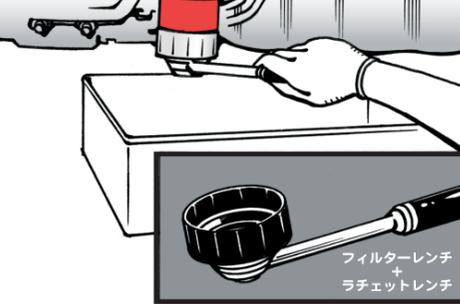
コールドチェックの目的はホットチェックできるオイル量があるかを、確認するためです。

オイル量を点検するときオイルレベルゲージの周りのゴミやほこりを拭き取って下さい。

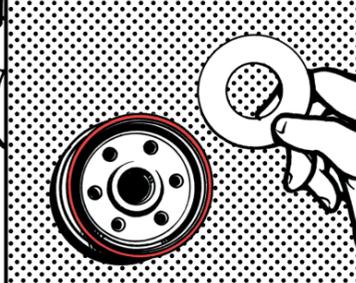


## オイルフィルターの交換手順

- フィルターレンチで取り外して下さい。



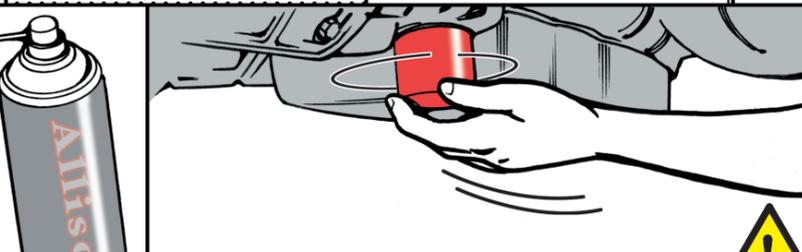
- マグネットをフィルター取り付けチューブから取り外して下さい。



- オイルフィルター取り付け部分を掃除して下さい。



- マグネットを洗油で洗浄後元の位置に取り付けて下さい。



コンバーターハウジングにフィルターガスケット部が当たるまで、手でねじ込み最後に1回転、手で締付けて下さい。



## ホットチェック作業手順

- コールドチェック後、車両を約10-15分程走行させ、油温を通常の運転温度(70-90℃)にさせます。



- 水温計の針が中間地点まで上昇したことを確認します。

気温が低い場合、15分以上走行させてください。



- パーキングブレーキを確実に効かせフットブレーキペダルを踏み込みながら、Pレンジ位置にしてください。



- アイドル回転のまま、オイル量がレベルゲージのHOT(ホット)範囲内にあるか点検して下さい。



不足している場合は給油し、多すぎる場合はドレーンプラグより排油して下さい。



最後に、車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れしていないかを確認して下さい。